

## 1. 病棟の具体的な目標と評価

## 1) 安全で質の高い看護を提供する

BLS や肺がん抗がん剤治療について学習会を実施した。特に、当部署は治験の取り扱いがあることや抗がん剤副作用により患者への不利益が生じた事例もあったことから全スタッフを対象に学習会を実施し理解を深めた。また、デスクカンファレンスや倫理カンファレンスを実施することで看護を可視化し共有する機会を設けた。カンファレンス前後で実施したスタッフの意識調査では、スタッフの認識については 90%から 91.8%に上昇し、カンファレンスで共有した内容を日々の実戦でできているかについては平均 43%から 59.5%へ上昇していた。このことから、カンファレンスを行ったことで患者の意思決定への関心が高まり、看護実践につながられるようになってきている。これからも、看護実践から倫理的課題を話し合い安全で質の高い看護につなげる。

## 2) 病院経営に参画する

PNS<sup>®</sup>ペアでHR ジョイント推進活動を実施し、6月のアンケートで使用率 52%、8月使用率 78%と増加した。使用方法がわかるように操作方法をラミネートしたものを作成し、電子カルテのパソコン台車に取り付けた。1月にHR ジョイント強化週間を設けて推進活動を実施、その後のアンケートで使用に対しての意見を把握し対策を立案実施した。

## 3) 患者の視点に立った医療安全を推進する

SafetyPlus の動画視聴でPPE 着脱方法を周知した。手指消毒のタイミングは作成したポスターを病棟に提示しスタッフの意識付けを図った。PPE 着脱チェックの実施、また、毎月手指消毒剤の使用量をチェックしてスタッフにフィードバックした。

## 4) 専門職としての能力開発に努める

研修日を把握し、勤務表に反映し受講できるよう支援したことで、現在、受講予定の研修はすべて受講できた。院外の研修もスタッフに提示し、ICLS と緩和ケアに 1 名、化学療法研修に 1 名参加できた。クリニカルラダーレベルのランクアップ希望者は 14 名であり、全員対象研修に参加できており申請を行うことができた。

## 5) 看護の先輩として学生に関わり、質の高い看護職を確保する

実習中は実習指導者が学生担当できるよう勤務表に反映させ、学生と関わった。学生の実習指導評価は 4.55 であり、病棟目標を達成することができている。

## 6) 活気ある職場、元気のある職場づくりを推進する

PNS<sup>®</sup>ペア同士で目標を決定し、休憩室に張り出し可視化することで、意識付けを行い目標達成できるようにした。パートナーシップマインドの理解度のテストを実施。実施前は平均 6.75/10 で、勉強会を実施した後は 7.4/10 と上昇した。パートナーシップマインド他者評価○の割合も前期 88.2%から後期 98%に上昇している。今後も PNS<sup>®</sup>マインドを定着させてスタッフが良好な関係を築き、看護の質の向上につなげていきたい。

## 2. 病床運営状況

表1 令和6年度 病床運営状況

収容可能 病床数(床)	診療科名	月平均		平均在院 患者数(人)	平均在院 日数(日)	病床 利用率(%)	病床 稼働率(%)
		新入院患者数(人)	退院患者数(人)				
48	呼吸器 アレルギー	85.5	97.3	39.6	13.2	82.5	89.2

重症加算病床		有料個室		死亡者数(人/年)
病床数(床)	稼働率(%)	病床数(床)	稼働率(%)	
3	96.3	7	96.9	49

## 3. 看護体制

表2 令和6年度 看護体制(令和6年4月1日現在)

配置人数(人)	看護方式	夜勤体制(準:深)
30	PNS <sup>®</sup>	3:3

## 4. 看護統計

### 1) 重症度、医療・看護必要度

表3 令和6年度 一般病棟 重症度、医療・看護必要度Ⅱ

※2024.6 から急性期一般入院料1 必要度区分Ⅱとする

基準を満たす 患者の割合(%)	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
		31.3	24.0	39.1	37.9	33.9	28.1	38.6	35.5	34.2	33.9	32.0	28.2

### 2) 部署データ

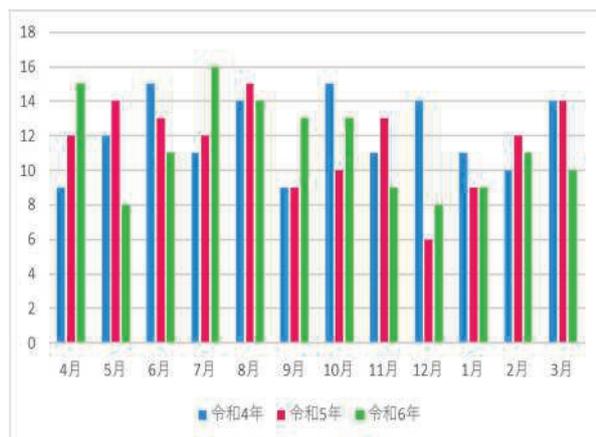


図1 令和6年度呼吸器外科手術件数



図2 令和6年度化学療法件数